

編集後記

2017年度の部会報はアジア水化学シンポジウムの報告を含めるために年明けの発行となりました。お忙しい中、原稿を準備いただきました久宗副部長をはじめとした執筆者の方々に改めて御礼を申し上げます。

東京電力殿福島第一発電所の事故から約7年が経過し、同じ沸騰水型原子炉においても初めて柏崎刈羽原子力発電所6/7号機で新規制基準の審査に合格し、再稼働に向けた準備が整いつつあります。しかしながら、一部の加圧水型原子炉で再稼働が実現しているものの、長期にわたるプラント停止の影響で運転を経験したことのない若手が増えており、水化学部会としても技術の伝承を考慮した様々な活動を継続しています。本年度は水化学ロードマップの見直しにも着手し、来年度からは水化学分野を担う技術者のバイブルとなる初版から20年近く経過した水化学ハンドブックの改訂作業にも着手する予定となっています。改訂作業には若手にも主体的に参画してもらい、ベテランがサポートする形で技術伝承の一助にすることを計画しています。このような活動を通して原子力発電所の安全運転に本部会が少しでも貢献できることを期待しています。

(日立GEニュークリア・エナジー 長瀬 誠 記)